

オオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）

平成29年8月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 発生生態

本種は1粒ずつ葉裏等に産卵するので、若齢を含む幼虫期に集団で食害することはありません。若齢幼虫期には展開中の新葉や花のつぼみに潜り込むことが多く、中齢幼虫期以降は莢や果実の内部、茎の中や結球の内部へ移動します。終齢幼虫は土に浅く潜って蛹化します。

本種の寄主範囲は極めて広く、ダイズ、キャベツ、キク以外にもトマト、ナス、キュウリ、イチゴなどの野菜類、バラ、カーネーションなどの花き類で被害が記録されています。作物への被害は、7～10月に最も多くなります。

2 発生状況

フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数（7月第5半旬まで）は、豊橋市のキャベツ栽培地域と豊川市のキクほ場、豊田市のダイズ栽培地域では**平年よりやや多く**、稲沢市のキクほ場ではおおむね平年並に推移しています（図1）。西尾市、安城市のダイズ栽培地域のフェロモントラップにおける本種の誘殺数は、現在は平年並からやや少ない状況ですが、**5月から6月頃に平年より多く推移**しました。

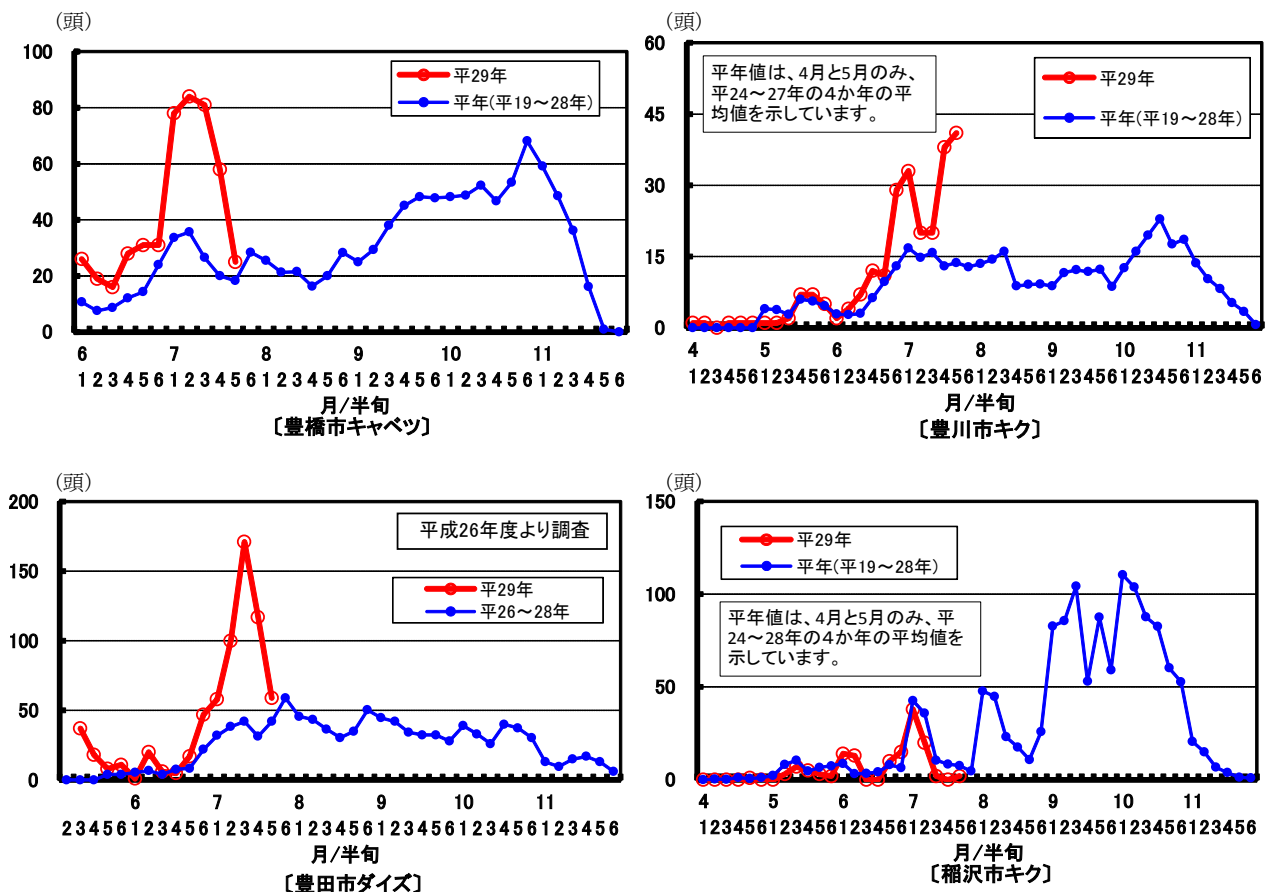


図1 フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺状況

3 今後の予測

7月27日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば気温は高く、降水量はほぼ平年並と見込まれています。本種の増殖に適する天候が続くことが予想されるため、**今後、発生量が急増する可能性があります**。また、春先の誘殺数が多い年は秋の発生が多い傾向があるため、**注意が必要です**。

4 本種による被害と防除対策

ダイズにおける本種による被害は、卵が卵塊でないために幼虫が集団で葉を食害することがなく、白変葉にはなりません。従って、ほ場外からの観察で発生を確認することは困難です。また、直接、莢を加害することから、被害が大きくなる傾向があります。

キャベツでは、栽培初期の被害は他のチョウ目害虫による被害と違いはありませんが、結球内部に食入する性質があるため、結球開始前までに防除を徹底することが重要です。

キクでは着蕾後に加害を受けると商品価値が著しく低下するため、着蕾以降は特に注意しましょう。

ほ場での発生動向に注意して、表を参考に、発生を確認したら防除しましょう。

表 オオタバコガに対する主な防除薬剤

作物名	農薬名	使用時期	使用回数	IRACコード
ダイズ	アタブロン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	15
豆類 (種実)	チューンアップ顆粒水和剤	発生初期但し、 収穫前日まで	—	11(A)
	サブリナフロアブル	発生初期 収穫前日まで	—	11(A)
キャベツ	アニキ乳剤	収穫3日前まで	3回以内	6
	アクセルフロアブル	収穫前日まで	3回以内	22B
	フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	3回以内	28
野菜類	フローバックDF	発生初期但し、 収穫前日まで	—	11(A)
キク	アニキ乳剤	発生初期	6回以内	6
	フェニックス顆粒水和剤	発生初期	4回以内	28
	コテツフロアブル	発生初期	2回以内	13
花き類・ 観葉植物	アフーム乳剤	発生初期	5回以内	6
	プレオフロアブル	発生初期	2回以内	UN
花き類・ 観葉植物 (りんどう を除く)	ディアナSC	発生初期	2回以内	5

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2017/mechanism_irac.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。



図2 オオタバコガ幼虫と被害葉(ダイズ)



図3 オオタバコガによる莢の被害(ダイズ)